

イオンリテール株式会社と株式会社ダイエーの回答

〔消費者さまの署名の要請内容〕

- 1) 資源が回復するまで絶滅危惧種を販売しないこと
- 2) 持続可能な方法で獲った魚を販売すること
- 3) 取り扱いのある魚介類の資源状況を店頭で公開すること

〔回答〕

ご意見ありがとうございます。

皆様のご意見、ご署名により、イオンで10年以上に渡り進めてまいりました施策が正しいものだと心強く感じました。

要請内容全体としましては、イオンでは「裏付けある『持続可能な魚介類』へのシフト」を社内で掲げ実行しており、要請にお答え出来る形をとっています。

イオンのお魚売場って、「品揃えが悪いね」とお感じになられる反面、「海のエコラベルとかシールがついているものが沢山あるね」と感じられているお客さまが大勢おられます。まさに、これが店頭での、お客さまへのメッセージとなっています。

1、次のような仕入れのための心得を明示していて、持続可能な調達を心掛けています。

【イオン持続可能な調達原則】

1. 自然資源の違法な取引採取漁獲を排除します。
2. 生物多様性保全、自然資源枯渇防止の観点で、イオン基準を設定運用します。
3. 再生不可能な資源の利用については、最小限に留めます。
4. 農産物や漁業資源の産地、漁獲方法などのトレーサビリティを確立します。

【イオン水産物調達方針】

資源の枯渇防止と生物多様性保全の観点から、定期的に関係リスク評価を行ない、リスク低減のために、実行可能な対策を検討し、持続可能な水産物の調達に努めます

【イオン生物多様性方針】

〈基本方針〉

事業活動全体における、生態系への影響を把握し、お客さまや行政、NGO などステークホルダーのみなさまと連携しながら、その影響の提言と保全活動を結局的に推進します。

わたしたちは、「生態系」について事業活動を通じ

1. 「めぐみ」と「いたみ」を自覚します。
-

2. 「まもる」「そだてる」ための活動を実行します。
3. 活動内容をお知らせします。

〈行動指針〉

商品：持続可能性に配慮し資源管理された生鮮品やそれらの加工品についての目標を設定し、取引先さまと共有しながら、仕入れ販売活動を行ない、お客さまにその情報を発信します。

持続可能に配慮した漁業・養殖の国際認証(MSC、ASC 等)を取得した商品を積極的に取扱い、情報を発信します。
環境負荷の低いプライベートブランド「トップバリュグリーンアイ」農水畜産物の開発、販売を継続して取り組みます。

2、海のエコラベル MSC 認証、責任ある養殖エコラベル ASC 認証『Fish Baton』の推進を

しています。 (グリーンピース・ジャパンによる追記：『Fish Baton』は、イオンリテールの店舗のみでの取り組みで、ダイエーの店舗では行っていません。)

- (1) 2016 年以降 2020 年までに「水産資源の維持・生態系の回復を目指し『次の世代に豊かな食文化を引き継ぐための取り組み』』ということ伝える計画をしました。
その取り組みの一つとして MSC 販売開始 11 年目、ASC 販売開始 3 年目、『fish baton』と名付けた常設コーナーを設置し、次の世代に豊かな食文化を引き継ぐための提案を実施しています。積極的に消費者の参画を求めてゆきます。
- (2) MSC・ASC による裏付けある持続可能な調達を 2020 年までに 20%に上げてまいります。

3、イオンでは、さまざまなお客さまとコミュニケーションする機会をもうけています。

これまでの消費者への魚介類に対するメッセージの一例です。この他にも、全国各地でさまざまな行事を催しています。

【具体例 1】「ASC アトランティックサーモン」の場合

・テレビコマーシャルで、ASC のロゴマークを使用しました。

2014 年 2 月、アジア初となる ASC 認証として販売開始いたしました。

販促物などで、お客さまに ASC としての持続可能性を訴求し、理解を求める体制をとりました。

- 養殖場周辺的环境保全のため、水質及び養分放出の調査を実施。
 - 病害虫を予防し、化学薬品等の投薬を 3 種に限定。
 - 天然魚への影響がでないように、養殖場からの魚の脱走を防止。
-



【具体例 2】「ASC パンガシウス」の場合

・2014年6月「サステナブル・シーフードウィーク」の初日にあわせて、ASC 認証のパンガシウスを発売しました。

日本ではなじみのない魚を販促物を含め、消費者に ASC としての持続可能性を訴求し、理解を求める体制をとりました。

- ベトナム農村部に養殖場と工場があり、地域の雇用促進に貢献しています。
- メコンデルタを汚染しないように、養殖場の排水は、沈殿処理を行い、川に戻しています。



【具体例3】「MSC かつお」の場合

・2016年10月、一本釣りカツオ・ビンナガマグロ漁業が、東北地方で初のMSC認証漁業になりました。
東日本大震災の被災地となった東北地方を拠点とする漁業として初の取得です。

- 「持続可能な漁法“一本釣り”で獲られたかつおで宮城ににぎわいを！」をキャッチフレーズに掲げました。
- 「トップバリュー一本釣り炭火焼かつお」は、東日本大震災の津波により港はもちろん沿岸の工場も甚大な被害を受けた宮城県塩釜市の水産加工業の明豊水産さまとの協業により実現した商品です。

このたび協業した明豊水産さまは、高品質のかつおを東北から全国へ継続的に届けるため、工場の再建とともに新たに自社船での“一本釣り”によるかつおの水揚げに取り組まれました。



【具体例4】「MSC 京都府産あかがれい」の場合

・京都女子大学の生徒さんがデザインしたMSC認証のポスターを作成、イオン京都五条店で、MSC 赤がれいの紹介を実施しました。

- POP等販促物を含め、消費者にASCとしての持続可能性を訴求し、理解を求める体制をとりました。
- 京都府機船曳網漁業連合会が禁漁区域・禁漁期間の設定等の管理で、漁獲量の回復に取り組み、

国産品として、アジアで初めてのMSC 認証を取得しました。

- 「未来につなごう、京都産あかがれい」「母の味は家族の笑顔、母の選択は海の写真」など、MSC の意義を解りやすくポスターで訴えていただきました。



このマークは未来も漁業を継続していくためのMSC「海のエコラベル」です。あなたの選択が未来の漁業と水産物を守ります。

©Kawan Marine & Fisheries



【具体例 5】 共立女子大学林田ゼミ×イオン「FISH BATON」 取組み



海のエコラベルを、
もっと知ってもらう為の
ポスター展



あっ、これ、これ!
海のエコラベル!
海の恵みを、得るの世代まで。

家政学部 建築・デザイン学科 デザインコース
林田ゼミナールが取組みました。
2015年7月10日(金)~7月17日(金)まで

グラフィックデザインを勉強する学生が、MSC の方より「海のエコラベル」についてお話を伺いました。世界の海と魚のこと。「魚が減っているって本当?」「どうしたら資源減を止めるの?」まずは「海のエコラベル」をもっと消費者に知ってもらえるよう、ポスターとPOP をデザインしました。

「海のエコラベル」の付いた製品は、MSC 認証を受けた持続可能で環境に配慮した漁業でとられたものです。いつまでも魚を食べ続けることができるように、「海のエコラベル」を選び、世界の海と魚を守っていきましょう。

MSC (Marine Stewardship Council, 海洋管理協議会)は、持続可能な漁業に対する認証とエコラベルを通して生命に富れた海を守り、将来にわたって水産物の供給が確保されることを目指している国際非営利団体 (NPO) です。

【具体例 6】 「MSC オーストラリア産キングブラウンエビ」の場合

MSC 商品として、発売イベントをオーストラリア大使館等と実施。多くのテレビ局、マスコミ関係者の関心を集める事で、新聞・テレビ・SNS等で、広く消費者の皆様へ「持続可能な裏付けあるシーフード」をご紹介しています。



株式会社イトーヨーカ堂の回答

「いただきましたご署名は社内関係各部で確認し、今後の仕入れ・販売の参考にさせていただきます。」

合同会社 西友の回答

「御団体からいただきました『マグロの赤ちゃんを守って！ Save My Baby』の署名につきましては、弊社商品部をはじめ、関係各位に共有させていただきました。皆さまからいただきましたご意見を参考に、適宜弊社の今後の対応について検討させていただきます。」

ユニー株式会社の回答

「平素は弊社店舗をご利用くださり誠にありがとうございます。
またこのたびは貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。
太平洋クロマグロは絶滅危惧種であることは弊社も把握しております。
また、産卵期の太平洋クロマグロの取扱いも行っております。
これは、水揚げされた水産資源を有効に活用するために実施しているものであり、積極的に産卵期の太平洋クロマグロの取扱いを行っているものではありません。
現在、毎年2割ずつ、産卵期の太平洋クロマグロの取扱いの削減を考えております。
またそれに加えて、完全養殖への取組みについても実施をしているところでございます。
貴重なご意見有難うございました。」
